

3次整備可能地の選定について

評価項目の評価結果及び総合評価の結果、自然環境、生活環境、経済性等に優れている以下の3箇所が、候補地として適地と考えられるため、3次整備可能地として選定する。
選定理由は、以下のとおり。

3次整備可能地の選定箇所一覧

箇所	選定理由
F	<p>河川上流部の丘陵地に囲まれた耕作放棄地や周辺の山林で構成される。建設するに当たり沢地形（底部）を活用することで、比較的低い概算工事費で建設可能。</p> <p>台地からの湧出水処理の措置は必要になるが、不透水性の岩盤で強固である。</p> <p>住居数はほぼ平均であるが、離れている。排出重心から比較的近いことから、利便性が高い。</p> <p>これらを踏まえると、地形に優れ、自然環境や生活環境への影響も比較的少なく、経済性にも優れていることから、最終候補地として検討する候補になりうると思われる。</p>
K	<p>河川中流部の東側にある山地で、複数の小さな沢地で構成される。建設するに当たり、複数の沢地形を活用することになるが、低い概算工事費で済む。</p> <p>岩盤表面は風化し、一部地下水が浸み出るなど、遮水対策が必要であるが、不透水性の岩盤である。</p> <p>希少種の生息可能性があるものの、住居が比較的少ないうえ、下水道整備区域までは近い。</p> <p>これらを踏まえると、地形に優れ、自然環境や生活環境への影響も比較的少なく、経済性にも優れていることから、最終候補地として検討する候補になりうると思われる。</p>
M	<p>山地で、谷地形となっている。建設するに当たり、地形を活用し、低い概算工事費で建設可能。</p> <p>不透水性の岩盤で強固であり、生物の多様性に乏しい。</p> <p>近隣に住居がなく、事業場が僅かにあるが、下水道整備区域までは近い。</p> <p>これらを踏まえると、地形に優れ、自然環境や生活環境への影響も比較的少なく、経済性にも優れていることから、最終候補地として検討する候補になりうると思われる。</p>